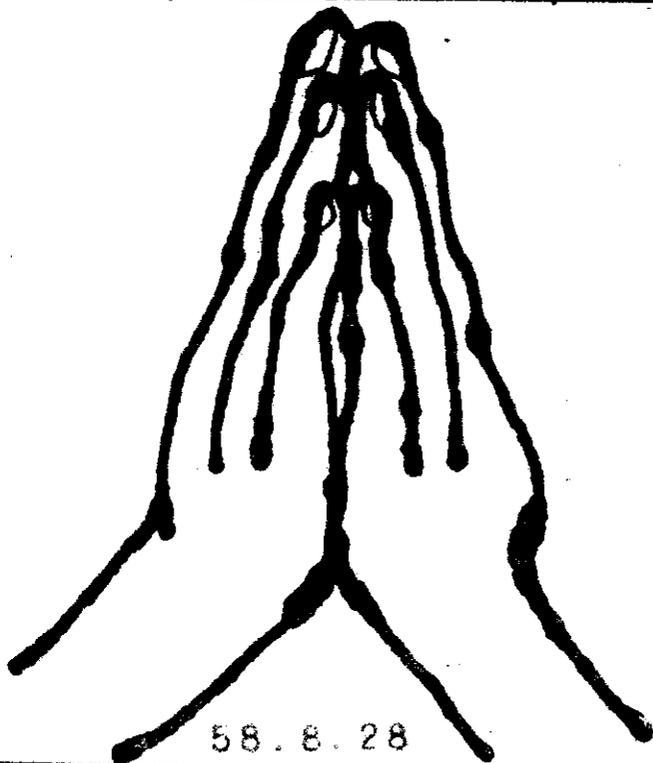




神奈川

神奈川

発行 立命館大学
 校友会神奈川県支部
 〒221 横浜市神奈川区
 鶴屋町2-21-9
 東亜興産(株)内
 広報担当
 ☎ (045) 312-1321



58.8.28

1000

- 講演会 昭和58年9月10日(日) 2:00~
 - ・演題 「日本人は どこからきたか」
 - 卑弥呼の謎をめぐって —
 - ・講師 田辺 昭三氏 (33年 院史学科修士卒)
 ※ 現在 京都市埋蔵文化財研究所 調査部長
 58年度 学士院賞受賞
 「須臾器大成」完成による
 - ・会場と会費 横浜駅西口徒歩2分 三善ビル地下1F ¥900円
 ※ 神奈川県支部のため京都より来浜。多数の御出席を望みます。
- ハイキング 昭和58年10月16日(日)
 - 丹沢で新鮮な空気を胸一杯に！ 本厚木—高松山—小町神社
 - 明治天皇も登られた高松山で — 一本厚木
 - 校友と家族の楽しい一時を過ごそう —
 - ・集合場所 小田急「本厚木」駅北口 噴水前
 - ・集合時間 A.M 10:00 ・解散P.M 3:00 ・昼食 各自。

故末川博名誉総長の碑文についての所感

副支部長 小田切 義雄 (昭18年文卒)

“未来を信じ、未来に生きる”の碑文を拜する時、これは立命館に学ぶ 学生への崇高な訓辞であるが、玩味すべき名言で 実に 力強い人間の条件を端的に表示している哲理でもある。それは 人間が人間としての活動を果たすべき権利と義務——この条件を 遂行したところにはじめて人間を 識るといふことであろう。「新しき明日の来るを信ずという 自分の言葉に嘘はないけれど。」と詠まれた啄木の歌にも窮えるが、畢竟「若人よ。明日への希望に生きよ。」と解釈できるもので、立命館の学窓から 社会への船出に際し、青春時代——それは 何ものにも障らぬ、自由に 思いのままに 諸現象を鑑賞することもできるが、然し 現実の世相を 凝視するとき、真なる美の鑑賞は どの角度より どの程度に見察し 行動すべきか——自由と責任感を考慮しなければ、ややともすれば 自己を見失ない それが明日への希望を 阻害するものなりや否やを 正しく判断することが 自己反省の正常化であり、道徳的価値観を 具備できるようになる。人生の行路 平坦ならず、またいつの日までか 春宵の夢を見ているのか……。行く川の流れに 浮べる花びらにも似て、小止みなく刻む時の細流に 静に耳を傾ける時に 悠久無限なる大自然の懷に抱かれて、 尽せぬ讃歌のメロディに心ゆくまでひたることが できるであろう。若人よ、希望に生きよ。そして自己の生活環境と個性に 適応した道——自分で選んだ道。たとえ険しくとも、遠くとも 僥倖しないで 生活図譜を自ら創造し、描写するよう 不断の努力を続けることが 肝要であろうと諭している。さて旧きは、聖域御所の隣の広小路に また新しきは、豊かな学理と技能を活用し、青春の抱負を 発揚し、初心忘るべからずの信念に徹し、立命館の建学の精神を 遵守しつつ、母校の隆昌と 校友会神奈川県支部の 発展を 念願するとともに、立命の集いの輪を 広げ しっかりと手を握りあって 新日本文化国家の建設のために 大いに邁進し 碑文の訓辞にこたえようではありませんか。



著者、小田切 義雄氏 (昭和18年文卒)

—小田切先輩の家族紹介—

相模原市南台に 200坪の敷地を有し、庭には キーウィー・梅・ぶどう・柿をはじめ たくさん果樹・野菜が 植えられている。義雄先輩は、立命館の地理第一期生であられ、県内の高校で教鞭をとられ、定年後 妻とき恵さんと 家庭菜園に時をすごし、また 作曲活動にも活躍され、悠々自適の毎日をすごされている。百花繁れる小田切家を是非、訪ねられて 手づくりの果実を 味わってみて下さい。



初期の広小路学舎正面

社会福祉事業にたずさわって

林 静枝 (昭43年経営卒)

男性の中で 四年間ボツンと学んだ私は 卒業以来十余年 日本橋の三井鉱山の子会社で 総務の仕事し 再び簿記学校で学び 求人票で見つけた「社会福祉法人 慈愛会」に勤めています。ここは 都の委託で 公費で運営されている 短期間收容者向けの 婦人保護施設であり、仕事の内容は 三井時代の経験を生かし 事務一般職です。都では 福祉が 非常に発達していることは 知っていましたが、私達の若い頃と違って 性に対する考え方も違い ローションの 未婚の母や 若くして結婚に失敗し 自力で生きる事が 出来ない女性も多い。そこで 都の婦人センターを通して 送られて来る人を 收容し、生活指導、妊産婦の保健衛生指導をしています。また、少しでも 自分の力で お金が得られるよう、親切な業者の計らいで 内職もさせています。ここから、都の母子寮に送られ 一昔前だったら 死の道を選ばなければ ならなかった人々が 救われています。寮生の内には たしかに 一時の快楽、それも自分で 楽しんだ末の甘えた者が 何割かはいますが—その人達も 寮生活を送ることにより、規則正しい生活 及び キリスト教精神を 学ぶ事によって 入所当否とは違った かなりしっかりした考え方を 身につけて 退寮しています。日本橋でO.Lをしていた頃の私は、福祉—それは 税金の無駄使いと思っておりましたが、こういう施設があることによって 現在の日本では 教育レベルの低い者、親の力のない人達を 再起させる事が出来ることを知り、福祉の重要性を知りました。また 民間企業に 長く勤めていた私は、公務員批判をよく耳にしましたが、仕事上 接触した 都庁の男性は、誠実で 勉強家なのに 驚ろきました。また 女の私が 行っても 花としてではなく、職業婦人として 指導助言して下さい、男女差別をしない意識の高さに 頭が下がります。最後に 仕事を持つ事—それは多くの人々を知る機会を得る事であり、自分を成長させる事に 通じると思います。

社会福祉法人 慈愛会 慈愛寮 にて

私の学生時代

川俣 浩一 (昭53年法卒)

「立命 知らなきや教えましょう—、2月中には受験して 3月中には 上洛し 着いた所が あ—、京都駅」と歌の文句にもあるとおり、私が京都駅に降りたのは昭和49年3月でした。あの頃、勉強・遊び・恋愛、と いくつもの期待で 胸をふくらませていた自分が 思い出されます。勉強をしたと言えるのは 3回生の後期位のもので、残りは すべて後者にあてられました。

私の学生時代で忘れることのできない事に 日本国際学生協会 (I. S. A) 京都支部という サークルでの 活動があります。学生だけの手による 国際交流を めざそうというクラブで、京都在住の外国人留学生や 東南アジア方面より 大学生を呼び、一緒に 寝食を共にして 会議や観光、パーティー等を行ないました。活動資金の援助を いただきに 京都の企業を回って 歩いたのも、今では楽しい思い出です。京都支部ということで、立命館大学だけでなく、同志社大学、京都女子大学、平安女子短期大学等の方々と 友人になることができました。このサークルの中で 知りあった彼女と 3年間程つきあい、いっしょに 賀茂川をよく歩いたことが、やはり 私の学生時代で 最も 印象に残ることかも知れません。

学生時代の思い出

武田 智敬 (昭30年法卒)

帽子をかぶり、金ボタンの学生服を身につけ、皮のカバンに六法全書を入れて……。今の学生さんと比べると想像出来ない格好で、通学していた。一見すると真面目なのである。アルバイトにしても真面目で、学費の一部に費やすために汗したのである。自慢ではないが、よく働きよく学んだと云える。ところが或日のこと、学生課の紹介でエキストラ(日当450円)に応募して大津湖畔の旅館に案内された。学校前に観光バスが来て一同は乗り込み、その旅館で浴衣に着がえた。

車窓には粉雪が舞い、薄暗くなり、夕食時で腹も空いていた。映画会社の責任者は、タレント用の折詰弁当を二人前持っていた。一同に曰く、びわこ競輪場で「時代劇の撮影に入ります。皆さんの弁当は現場に用意しました。時代劇の撮影なので、時計とか貴金属は私が預かります。この袋に入れて下さい。」と言う。

私はよくエキストラには出ていたので、時計なんか一寸奥の方に入れておけば大丈夫だ。そんなハッキリ映らないからと皆んなに云った。どうしたことか50人のご一同は誰も預けなかった。責任者は「タレントに弁当を預けてきますから一寸お待ち下さい。」と言い残した。

雪は道路を白く染めた。もう、すっかり暗くなった。責任者は十分たっても二十分たっても帰ってこなかった。運転手に早く競輪場に行くよう言う人もいたが、責任者の帰りを待った。

やがて車内はがやがやとなり、誰かがおかしいと言いだした。この辺が今の時代とは違うと思うのだが、カセットかテープを持ち込んで何時間でもがやがややる所だろうがそんなものはない。寒くなってきた。運転手もおかしいと言いだして結局大津駅まで送ってもらい、いやな思いをして帰ったものである。旅館、観光バスも支払いなし。もち論、450円は今も未払いである。

翌年、秋だったと思うが荒神橋事件があってその取材のため京都女子大に行った。私は学内放送局に所属していたので事件で負傷した女子大生へのインタビューを志した。が、時の宮崎学生部長にキャンキャン犬を追い出すように拒まれ、学内に入れず引きあげた。

東山七条まで皆と一緒に歩いて来た時である。事件が再燃。私の前に映画会社の責任者殿が歩いている。一緒に帰ろうとした局員は何か起きたと驚いた。私は電柱に又次の電柱に身をかくし、感知されぬよう追跡し、正面通り手前の交番にその責任者を追い越して今、前を通る男を逮捕してくれと頼んだのである。

責任者と一緒に七条署で調書に詳細を記して帰宅した。

翌朝、立命大生お手柄!など三段見出し

で各紙に出たことを思い出す。

いつの世も世間様を騒がす奴が

絶えぬものだと思う。

手段はともかく

勝てばよい!
金を握った者が
勝ちや!という
世の中であって
よいものか。



広小路学舎(存心館)

— 各担当者からのお願い —

○ 会費払い込みのお願い！ (会計担当 重谷)

会員一人一人の会費が 今後の支部の 充実した運営、発展に結
ことと 御認識のうえ 皆様の御支援、御協力を お願いいたしま
会費は、年間わずか 2,000円です。

振込先は 下記いずれの機関を 通じても 結構です。

- (1) 銀行 横浜銀行 横浜駅前支店
普通預金 No.825229
- (2) 郵便局 横浜中央郵便局
振替口座 No.横浜5-10799

※ 口座名はいずれも「立命館大学校友会神奈川県支部」

- (3) 現金書留 下記事務所まで
〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-9
三善ビル 東亜興産(株)横浜支店内
浜田平穂

※ 58年度分納入された方は、本年度会費は 結構です。

○ 花嫁求む！

- ・高校教員 50年 文 卒 31才
・会社員 54年 経済卒 28才

詳細は 立命館大学神奈川県支部事務局まで。
東亜興産(株)横浜支店内

○ 求人・求職の募集をいたします！
事務局へ ご応募下さい。

○ 協賛広告を御願ひ致します！

1. 体裁 B5版
2. 発行部数 800部
3. 広告料金 A (7.3cm×5.2cm) ￥5,000円
B (14.6cm×5.2cm) ￥10,000円
C (14.6cm×10.6cm) ￥20,000円

新製品の紹介

◎ サインペンは 顔料インキの“ビグ”の時代へ。

◎ ぷらぷら文庫とメアリの調文字が同時に楽しめる
ぷらぷらマーカー。

株式会社 サクラクハス

東京本社 〒101 千代田区五反田3-1-16 TEL 03(463)4224 (代)

